

儀式は三箇日なり、三獻のたびは夜のおと、の東の戸にむかひて是をめす、薬のかみ是を持って、
江次第に見えたり、三獻のたびは夜のおと、の東の戸にむかひて是をめす、薬のかみ是を持って、
二間より陪膳に隨ふ、立ながらめすなり、後取に給はる事皆同じ、三獻はて、御はがためをい
す、一度に一盤にすう、三日の儀是におなじ、但第三日夜のおと、より、御座へ歸りつかせ給て後
かうやくをたてまつる、二ばん銀器に入れたり、無名のゆびに付て、御ひたははうちに留めらる、
くすりのかみ是を取て、鬼の間よりまかりいだし、こよひうちく女房に頼ち給ふなり、
〔後水尾院當時年中行事正見〕れんだいの中央西にせまりて御褥ばかりをまきて、うけとりを供
す、はいせんの人はひさしに候す、二獻まるる、初獻ひし花平、二獻の時はじめて屠
そ白さんてうしに入、内侍是を役す、白散はもとより、上段の西北の角におく、御かみ内侍簾
だいの御方をへて、白散のもとにす、みよりて、是を入て本路をへて、はいせんの人のもとにす、
みよりて、てうしをまるらす、二獻の時、うけとり進上の人、いづれも天盃をたぶ、

〔元寛日記〕寛永七年正月朔日、將軍家秀忠公ハ、女帝正明之御外祖也、年中行事之次第、自傳奏板倉
周防守方江記録シテ遣之、即贈關東略中三箇日間、有屠蘇白散之規式、薬子ト云小女未嫁用之、一
獻入屠蘇於酒、令飲薬子、次入銀器、傳配膳、後奉主上、一日四位、二日五位、三日六位、藏人之役也、二獻
供神明白散、三獻供度障散、此儀式、人王五十二代嵯峨天皇御宇、自弘仁年中始ル由載之、略中
右禁中年中行事、自傳奏記録シテ獻之、

〔友俊記〕御茶を供す、略中第一の御ごんとその酒、第二に神明白散、第三に御とうやく、略註とそ
の酒を命婦にこゝろみのましむ、これは昔薬子とて、少女にのましめて後奉るゆゑにや、此頃は
たづぬるに少女の事なし、又後取の人もなし、御薬は典薬頭丹波の姓小森藏人家より調進す、白
朮のへらあり、白朮のさぢあり、すゑ物に納て土のたかつきにのする、宮のかたちは、檜すみとり
たるはこなり、身ふたのそこに、數々けづり木にて筋をつくる、略中當時のけしきかくのごとし、